

## 生産者の皆様へ

登録内容変更についてのお知らせとお願い

### ガゼット粒剤 (農林水産省登録第17400号) 石原ガゼット粒剤 (農林水産省登録第21046号)

今般、原則として全ての農薬に、順次、短期暴露評価が実施されることとなりました。この評価にあたり、ガゼット粒剤は登録作物の削除申請をいたしました(平成26年11月11日)。短期暴露評価とは、登録されている使用方法で想定される最大の農薬量が残留したと仮定した作物を、たとえ通常より多くの量を短期間(1日)に摂取した場合でも、健康に影響を与えないよう農薬の安全性を一層担保するために導入されるものです。

- お願い：作物名が削除される作物では使用しないでください。
- 登録変更内容：作物名から下記作物を削除する。

なす	きゅうり	すいか	メロン
とうがん	だいこん	いちご	ねぎ
かんしょ	キャベツ	はくさい	ブロッコリー
ばれいしょ			

- 登録変更後の【適用害虫と使用方法】は裏面の通りです。

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

(日産製品の場合)

日産化学工業株式会社 農業化学品事業部 マーケティング部 TEL:03-3296-8141

(石原製品の場合)

石原バイオサイエンス株式会社 開発普及部 TEL:03-5844-6320

## 変更後の【適用害虫と使用方法】（平成26年11月11日 申請内容）

\*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	使用量		使用時期	総使用回数*		使用方法
					本剤	カルボスルファン剤	
水 稻 (箱育苗)	イネミズソウムシ イネドロオイムシ イネゾウムシ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60 ×3cm 使用土壌 約5ℓ)	1箱当り 40～70g	移植前3日～ 移植当日	1回	1回	育苗箱の苗の 上から均一に 散布する。
	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ		1箱当り 50～70g				
	イネシンガレセンチュウ		1箱当り 70g				
ピーマン	アブラムシ類 ミナキイロアザミウマ	1～2g/株		定植時	1回	1回	定植時： 株元散布又は 植穴土壌混和 育苗期後半： 株元散布
		1g/株		育苗期後半			
さとうきび	ハリガネムシ メイチュウ類 コガネムシ類幼虫	6～9kg/10a		植付時	2回 〔植付時の土壌混和は1回、 培土時の土壌混和及び 散布は合計1回〕	2回	植溝土壌混和 株元土壌混和
				培土時			
たばこ	アブラムシ類	6kg/10a		定植時	1回	1回	作条土壌混和
き く	ネグサレセンチュウ	30kg/10a		定植時  生育期	3回	3回	全面土壌混和 株元散布又は 植穴土壌混和 株元散布
	アブラムシ類	2g/株					
	ミカンキイロアザミウマ						
つつじ類	コガネムシ類	9kg/10a		定植時及び 生育期	2回	2回	定植時： 全面土壌混和 及び 株元土壌混和 生育期： 株元土壌混和
	ツツジグンバイ	10g/株		生育期			
ストック	コナガ	9kg/10a		定植時			株元散布 全面土壌混和
		18kg/10a					
シクラメン ペゴニア	キンケクチフトソウムシ幼虫	1～2g/株		生育期	1回	1回	株元散布
プリムラ	キンケクチフトソウムシ成虫	0.5～2g/株					
イチイ	キンケクチフトソウムシ幼虫	2g/株					
芝	コガネムシ類 シバオサソウムシ成虫 ケラ	5～10kg/10a		発生初期	3回	3回	散布

作物名	使用目的	使用量	使用時期	総使用回数*		使用方法
				本剤	カルボスルファン剤	
芝	ミミズの糞塚形成防止	5～10kg/10a	糞塚形成時	3回	3回	散布
	オオハサミムシの 脱出孔形成防止		脱出孔形成時			